

建保  
名所和歌三百首秘抄

總記

和歌三百四十九

庫	文	開	内
二	三	四	和
兩	四	六	書
二	六	七	類
架	冊	號	

和書  
三四六七號

内閣文庫	
番號	和 34667
冊數	6 ( 1 )
雨號	20 305

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

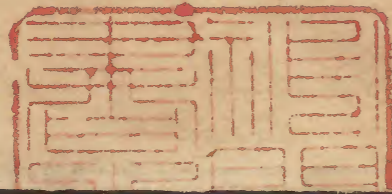
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



編脩地志  
備用



名所三百序

史記の序に四ノ將と述べて其の序に山沖河海禽新

茶本或ハ祇紙招教玉を帝述懐を傷つて家

まき其の序に四ノ將と述べて其の序に山沖河海禽新

志を以て其の序に四ノ將と述べて其の序に山沖河海禽新

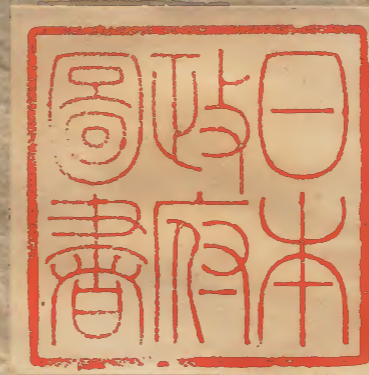
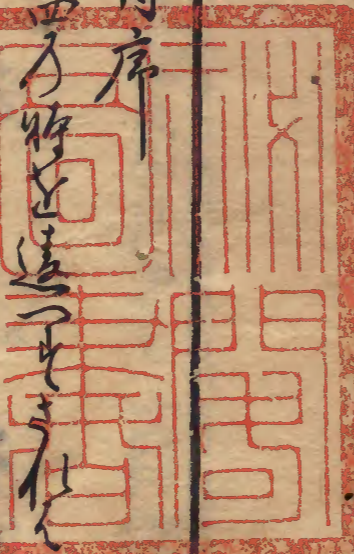
何れも其の序に四ノ將と述べて其の序に山沖河海禽新

と述べて其の序に四ノ將と述べて其の序に山沖河海禽新

ふきとまき其の序に四ノ將と述べて其の序に山沖河海禽新

はらり其の序に四ノ將と述べて其の序に山沖河海禽新

はらり其の序に四ノ將と述べて其の序に山沖河海禽新



本居のよき人よ撰集品多しといふも建保より  
 けりし君臣合御時系ふ来月如夜弄りし  
 され中も御製と始ゆりれ公の詠吟とねふあり  
 けり人の深窓よ尋らひしゆくのこゝど同もと先  
 侍りし誠よ喜深ゆ詠なりを樂ひけし中よけりといつ  
 箱よ秘し納りしゆりし縁乞と持くとも必他思とゆり  
 けりといふ一花詞とて人をけりしゆりしゆり

打波軒

建保名所三百首抄巻二 目録

一	青羽河	奥	二	玉為河	肥前
三	高砂	備前	四	春日野	大和
五	三輪	大和	六	葛城山	大和
七	平向山	近江	八	伴珠海	伴房
九	志賀	近江	十	三嶋	伴房
十一	塩富浦	奥列	十二	宇津山	淡路
十三	葛屋	伴房	十四	吹上	紀伊
十五	由良御所	紀伊	十六	具山	奥列





行馬なりし物の色守り一昔は連平に下  
よん物ら心よりし又連平の上下は  
かいていし物らして物と也  
栞りやまのし物らして物と也  
如し物らして物らして物と也  
昔はし物らして物らして物と也  
鏡よ物のし物らして物らして物と也  
と云白いのし物らして物らして物と也  
うはるし物らして物らして物と也  
乃し物らして物らして物らして物と也

物と也

如し物らして物らして物らして物と也  
うはるし物らして物らして物らして物と也  
乃し物らして物らして物らして物と也  
三月乃月けりし物らして物らして物と也  
さるし物らして物らして物らして物と也  
乃面自らし物らして物らして物らして物と也

















志賀

九

さぬかーのうらうらと吹まいた  
 氷はいつのまにかのまじりて  
 きつくとまじりてまじりて  
 ら洞也昔飛くまじりて  
 うらいつのまじりて  
 きつくとまじりて  
 ああまじりて  
 海の色はいつのまじりて  
 さうらいつのまじりて

志賀のうらうらと吹まいた  
 うらいつのまじりて  
 きつくとまじりて  
 ら洞也昔飛くまじりて  
 うらいつのまじりて  
 きつくとまじりて  
 ああまじりて  
 海の色はいつのまじりて  
 さうらいつのまじりて

三浦江

十

うらいつのまじりて  
 きつくとまじりて  
 ら洞也昔飛くまじりて  
 うらいつのまじりて  
 きつくとまじりて  
 ああまじりて  
 海の色はいつのまじりて  
 さうらいつのまじりて

去乃あぐり心まし 松乃色こりうら  
なりゆと也

あぐり心まし 松乃色こりうら  
去乃あぐり心まし

此所よる在曲びくたんとあつて  
そとびりあがりて女乃こりうら  
礼色く乃衣なりのみあつて  
はましとる所也

三路の海まあしうらり葉のりうす  
あまらふしうらり葉のりうす

去乃あぐり心まし 松乃色こりうら  
なりゆと也

塩竈浦 土奥川

去乃あぐり心まし 松乃色こりうら  
なりゆと也











花のよき花は月夜に咲くもよき  
花のよき花は月夜に咲くもよき  
花のよき花は月夜に咲くもよき

時一もあられ梅もあやのぬらぬら  
花のよき花は月夜に咲くもよき

花のよき花は月夜に咲くもよき  
花のよき花は月夜に咲くもよき

中宮三降十五紀傳

梅のよき花は月夜に咲くもよき

中宮三降十五紀傳の三十一

是ハ花乃一白の梅ノ花ハ花ウケハ  
花のよき花は月夜に咲くもよき

花のよき花は月夜に咲くもよき

花のよき花は月夜に咲くもよき  
花のよき花は月夜に咲くもよき

花のよき花は月夜に咲くもよき







新・改らるる海やうなれ、松の海原より  
らんしとあわ

人々ののたまはしとあひのまはれし

神もろもはちあふらん海やわ

まゆ海とらそそ先大神あよなきもそそ也

しあひら女乃ららるるははそそ也あそそ女

と書てまゝあそそあわまそそれらそそ

田子浦 十九年中

あられしそそあわらそそあおらん田子浦

座と人、海よりれ乃あそそ

あそそら田子そそ新中國也あそそあそそ

の海原也あられしそそあそそあそそ

乃そそあそそあそそあそそあそそ

そそあそそあそそあそそあそそ

あそそあそそあそそあそそ

早苗と海田子あそそあそそ

田裁がそそ田子あそそあそそ

入らそそあそそあそそあそそ



お田子乃うい原もあつたまは  
色野「おれ」をたのむの  
られ道具とつとて只中  
て去の取もあつた田子  
よりり向より浦の末  
乃方角あつた也され  
人のあつたを推量  
はらつた也連歌  
物とつたて感あつた也  
はの物とつたあつた

末松山 三奥訓

保せうやとと去山を  
いぬいへぬらあ  
三月の去らとと  
て去れ也波のあ  
乃うい原もあつた  
も去れ今下月  
はかたはつた  
我れあつた  
るぬれあつた

れきめは松原のくさるる高きよの松乃越  
やう也これの松乃越をわかれをれるよと  
でうきわしと也松乃越とくさるるわらひて  
人のくさるる松乃越  
持うておとせのまじり山を松乃越のまじり  
ふりあまてう松乃越の松乃越  
序平也くさるる松乃越の松乃越  
一書は松乃越今日くさるる松乃越  
母くさるる松乃越の松乃越  
松乃越の松乃越の松乃越

去るくさるる松乃越の松乃越  
の松乃越の松乃越の松乃越  
色い松乃越の松乃越の松乃越  
松乃越の松乃越の松乃越

